

第2部

北朝鮮・金正恩体制の安全保障政策

第4章 金正恩体制の安定性と安全保障政策への影響： 米国の視点¹

ブルース・ベクトル

金正恩体制の安定性と安全保障政策への影響：米国の視点

金正恩が、父の急逝後に北朝鮮の指導者に就任して以降、金正恩体制の安定性と安全保障に関する様々な分析において、多くの議論と疑問が投げかけられている。金正恩には、経験や人格において、祖父や父とは多くの個人的な相違点がある。また彼は、祖父がソ連から得ていたような大規模な後ろ盾となる支援（特に財政的支援を含む）が存在せず、父が権力を手にする以前に有していた長期間にわたる経験や訓練のバックグラウンドも有していない。このため、金正恩体制の安定性や、それが国内のみならず周辺地域の安全保障に対して与える影響について、多くの疑問が存在する。

多くの専門家が、その分析において、金正恩の意思決定プロセスは祖父や父のものとは大きく異なると分析している²。しかし、これは正しい分析であろうか。実際には、北朝鮮の意思決定プロセスがどのように機能しているかを知るためには、金正恩が権力を掌握する以前の時代において、どのようなプロセスが策定・運用されてきたのかを理解する必要がある。この意思決定プロセスに関する考察により、金正日の死去後、これがどのように変化したのか、あるいは変化していないのかが分かる。国家の意思決定プロセスを検証するために通常用いられる方法は、その国家の支配権力構造を構成する主要な機関を分析することである。そして、北朝鮮のような共産主義国家も、この例外ではない。そこで本稿では、北朝

¹ 本稿において述べられた見解はあくまでも筆者個人のものであり、アンジェロ大学の公式な方針や見解を必ずしも反映しているものではない。

² 金正恩の指導手法が父と異なると分析している著作の例として、次を参照。Ken Gause, “North Korean Leadership Dynamics and Decision-making under Kim Jong-un: A Second Year Assessment,” *Center for Naval Analysis*, March, 2014, URL: https://www.cna.org/CNA_files/PDF/COP-2014-U-006988-Final.pdf

鮮の主要機関について、これらがどのように権力を掌握し、金正恩が父に比べてどの程度これらを管轄できているのか、これら機関が北朝鮮政府の将来の基盤構築に寄与しうる（または寄与しない）役割であるのかについての考察を試みる。

北朝鮮政府及び政策決定構造について検討するに際し、金正恩体制の強さに関する議論における主要な事項の一つを検証する。すなわち、粛清とその役割である。これにより、本稿では、金正恩政権下で行われた粛清について、誰に対してこれらの粛清が集中的に行われたのか、これにより権力構造の中に生じた不信や権力闘争、これらの行動が体制の強さを表すサインなのか、それとも脆弱さを表すサインなのかを検討する。体制の安定性や安全保障政策への影響を考察するため、金正恩体制が実施してきた多くの諸行動を取り上げる。これらの影響は、経済的及び政治的双方におけるものである。またこれらは、北朝鮮の権力構造の中で、高官及び中堅レベル双方の政府当局者によって対処されなければならない課題を明確に作り出している³。最後に、本稿で扱われる事柄全てを評価し、北朝鮮で現在行われている破壊的かつ懸念をもたらす国家活動に対処するため、米国並びに韓国及び日本を含むその同盟国が採用しうる政策について提言を行う。

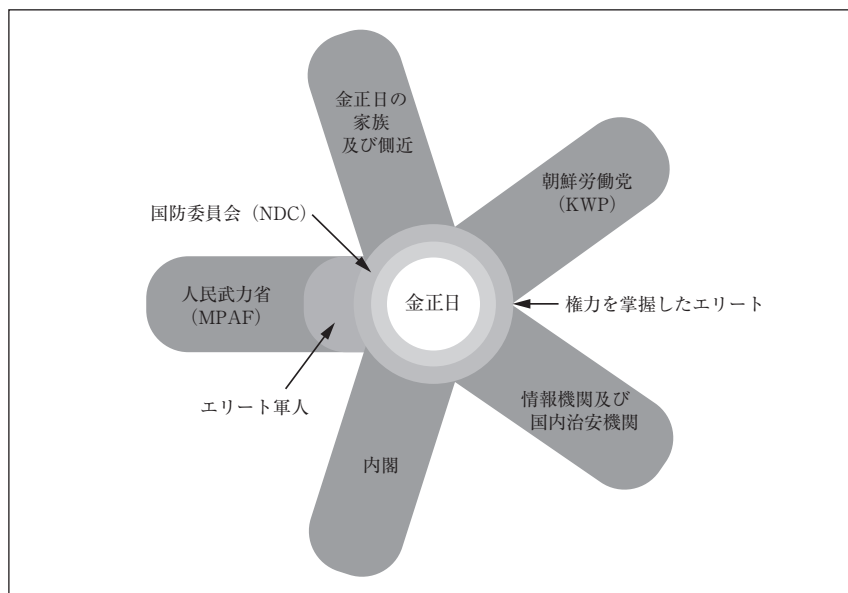
意思決定プロセス：金正恩の下でどのように変わったか？

北朝鮮における意思決定プロセスは、これまでも複雑であったが、注意深く検証すれば極めて理解しやすいものである。このプロセスは、金日成の下で始められ、軽微な変更がなされたのみで、その息子である金正日の下でも維持された。本節では、北朝鮮において作られた意思決定プロセスを検証し、金正恩時代において実質的な変更が行われたのか否かを議論する。機関名の変更や異なる機関における粛清（多くの事例が存在し、後に論じる）は、国家運営を維持してい

³ 金正恩体制下の北朝鮮によって作り出された地域的な不安定の例として、次を参照。Ian E. Rinehart and Mary Beth D. Nikitin, "North Korea: U.S. Relations, Nuclear Diplomacy, and Internal Situation," *Congressional Research Service*, January 15, 2016, URL: <https://www.fas.org/sgp/crs/nuke/R41259.pdf>

る権力構造やその過程において、実際に大規模な実質的変更が行われたことを意味するものではないことには注意が必要である。

図1 金正日の権力サークル



出典：Joseph S. Bermudez Jr., “North Korea’s Strategic Culture,” Prepared for the *Defense Threat Reduction Agency, Advanced Systems & Concepts Office*, October 31, 2006, URL: <https://fas.org/irp/agency/dod/dtra/dprk.pdf>

上の図（図1）の分析から、金正恩の以前の権力構造は、父の時代からほとんど変更されていないことは明らかである。北朝鮮の3つの主要な機関は、軍、党及び治安機関である。これらの機関の中で指導的地位を手に入れた個人は、強大な権限を持つ一方、自らの管轄機関外では権力を持たない。むしろ、全ての主要な幹部らは、国家指導者に対して直接的に従う。北朝鮮は、第二次大戦の終結後、このような方法で国家を運用してきた。これに加え、この権力構造において、権力を掌握したエリートが広く存在していることに着目すべきである。彼らは

現在、第三世代の北朝鮮の「特権階級」だと考えられている⁴。すなわち、彼らの家族は、第二次世界大戦における金日成のパルチザン戦闘部隊か、朝鮮戦争において朝鮮人民軍で指導的な役割を果たした人物かのいずれか、又はその両方にまで遠く遡り、体制に対して忠誠を誓ってきたのである。

北朝鮮における政治構造においては、最近、同国で最も強力な政治機関であると言われた国防委員会（NDC）の解散という小規模な変化があった。国防委員会は、「国務委員会」という、国防委員会が担ってきたのとはほぼ同じ役割、すなわち高度な意思決定を行う組織に置き換えられた⁵。これにより何かしらの変化がもたらされたのであろうか。十中八九、答えは否である。国防委員会は、厳密に将校のみで組織されていた訳ではなく、また参加していた将校の多くは戦闘に従事した将校ではなく、治安機関や党の主要な役職を担う者であったということを忘れてはならない⁶。また、党、軍及び治安機関という3つの主要な機構に基づく根本的な前提自体は、変更されていないことに注意すべきである。軍は依然としてこの権力構造の主要な部分を担っているが、金正恩は、治安機関や党と比べ、軍において権力を固めることに苦慮した（この点については、本稿で後に検討する）。北朝鮮における権力掌握と意思決定プロセスの利用における実際の違いは、金正恩の権力が父より弱いということであり、これは指導者に就任した時点から存在している傾向である⁷。

2012年、北朝鮮が新指導者の下での最初の長距離弾道ミサイル実験を実施

⁴ 北朝鮮の権力構造においてエリートの第三世代が広く影響している例として、次を参照。Ser Myon-ja, “Jong-un Leans on Father’s Generation of Loyalists,” *Joongang Ilbo*, January 16, 2015, URL: <http://koreajoongangdaily.joins.com/news/article/article.aspx?aid=2999723>

⁵ 次を参照。“More information needed to analyze possible change in N.K. defense ministry: Seoul,” *Yonhap*, July 4, 2016, URL: <http://english.yonhapnews.co.kr/news/2016/07/04/0200000000AEN20160704004700315.html>

⁶ 次を参照。“National Defense Commission,” *North Korean Leadership Watch*, December 2015, URL: <https://nkleadershipwatch.wordpress.com/dprk-security-apparatus/national-defense-commission/>

⁷ 金正恩の北朝鮮の意思決定プロセスに対する支配が、父に比べて弱いとされる原因に関する優れた分析として、次を参照。Takashi Sakai, “North Korea’s Political System,” *Journal of World Affairs*, Vol 61-2, February 2013, URL: https://www2.jiia.or.jp/en/pdf/digital_library/korean_peninsula/160331_Takashi_Sakai.pdf

する前に、金正恩体制下の意思決定プロセスにおける混乱としか評価できない事案が発生した。その事案の発生直後、筆者は以下のような記事を発表した。「金正日の死の数日前に行われた二国間交渉において、発射実験計画について知らされた米国当局者は、北朝鮮側に対し、弾道ミサイルの発射は、その目的が何であれ国連安保理決議第1874号に違反し、累次の合意に反する旨を伝えたようである。しかし北朝鮮側は、査察及び弾頭ミサイル実験に関するモラトリアムに関する新たな交渉を進め、その直後『人工衛星の発射実験』を発表した（これは、意思決定プロセスにおける明らかな混乱か、急激な政策変更のいずれかであることを露呈している）。北朝鮮における権力承継が、大勢が予想したほど円滑には進んでいない可能性がある」⁸。金正日が存命であってもミサイル発射は確実に実施されていたと思われるものの、金正恩指導下で生じたミサイル発射に関する外交的な迷走は、「親愛なる指導者」の下であれば発生しなかったであろう、というのが筆者の分析である。

金正恩の権力や意思決定プロセスの支配権能に関する問題は、金正恩体制下で最も衝撃的な事件によって表面化することになった。すなわち、張成沢の粛清である。この粛清は、大規模な粛清行為によって劇的な影響が生じるとしても（まさに張成沢の粛清においても生じたが）、意思決定プロセスは容易には変更できないことを表している。張成沢は、究極の過ちを犯した。1950年代以降初めて、自らの管轄する機構以外にも忠実な部下を持つ実質的な指導者となったのである。張成沢には、党、治安機関、軍及び様々な政府機関内に、忠実な部下がいた。これは、許されざることである。このため、張成沢、その家族及び支援者は粛清され、その多くは処刑された⁹。党内や、広く社会や政府の様々な事案を監視するのは、組織指導部（OGD）である。金正恩は指導者に就任後、

⁸ 次を参照。Bruce E. Bechtol Jr., “Ramification of N. Korean Satellite Launch,” *Korea Times*, March 26, 2012, URL: http://110.45.173.105/www/news/opinion/2012/04/198_107731.html

⁹ 張成沢のみでなく、その支援者に対する粛清に関する更なる分析として、次を参照。Robert Collins, “North Korea’s Theater of the Absurd and the New Number Two’s,” *War on the Rocks*, February 13, 2014, URL: <http://warontherocks.com/2014/02/north-koreas-theater-of-the-absurd-and-the-new-number-twos-3/>

党内で最も権力を持つこの主要機関に対する支配を確立するために権力を発揮し、張成沢を肅清したのも、最終的には組織指導部の掌握が目的であったと考えられている¹⁰。この結果、何が起ったのか。これをどのように分析すべきであろうか。金正恩体制下においても、意思決定プロセスはほとんど変わっていない。ただし、金正恩の側近の権力は小さくなり、彼の動向はますます迷走し、新たに着任した多くの者は、報復を恐れて真に有益な助言をすることは困難となった¹¹。これは、党の運営メカニズムにも影響し、肅清の文化を作り出した。この2点について、次に論じたい。

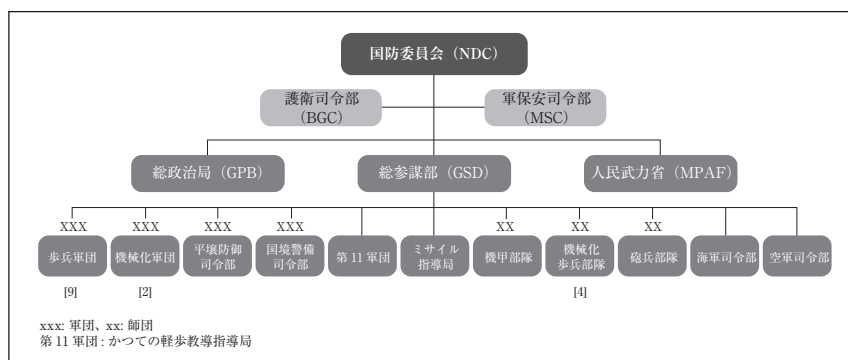
北朝鮮の主要機関：どのようにして権力を維持してきたか？

本稿では、北朝鮮の意思決定プロセスを取り上げることで、これらの決定を行い、実施した主要な機関を検証してきた。これらの決定（同時にプロセスそのものでもある）は重要である。しかし、これと同様に重要なのは、これらの機関がいかに関連し、金正恩体制下で用いられ、権力維持と国の支配において彼を支えてきたのかということである。本節では、金一族（現在は金正恩）が、日々において国家を支配するためにどのように国家の主要機関を利用しているのか検証する。また、これらの機関内部や機関相互において、権力闘争が行われる過程で生じた事象も取り上げる。

¹⁰ 次を参照。Jang Jin-sung, "This is it: North Korea's Hidden Power System," *New Focus International*, December 31, 2013, URL: <http://newfocusintl.com/north-koreas-hidden-power-system/>

¹¹ 金正恩の弱さが意思決定プロセスにどのように影響しているのかに関する重要な分析として、次を参照。Sam Kim, "North Korea Turns More Erratic as Kim's Inner Circle Shrinks," *Bloomberg*, January 12, 2016, URL: <http://www.bloomberg.com/news/articles/2016-01-13/north-korea-turns-more-erratic-as-kim-s-inner-circle-shrinks>
Michael Madden, "Let the Hawks Soar," *38 North*, February 27, 2016, URL: <http://38north.org/2016/02/mmadden022516/>

図2 北朝鮮の軍事組織



出典：“Defense White Paper,” *Ministry of National Defense, Republic of Korea*, 2010.

上の図（図2：北朝鮮の軍事指揮命令組織）を分析すると、冷戦下で多くの共産主義国家を含むその他の独裁国家が、国家元首の権力維持と軍の支配のために利用してきた古典的な「分割統治」であることが分かる。これは、北朝鮮において主要機関がどのように支配され、権力維持のために利用されてきたかを示す一例であると考ええる。これと同じ概念が、党及び治安機関内においても適用されると考えられる。

この図について本節で触れる最初の内容は、2016年夏に国防委員会が廃止されたということである。国防委員会は、これと同じような機能（最高権力）を有するが、少なくとも本稿では、軍事に関する重点が小さくなったと考えられる「国務委員会」に置き換えられた。しかしながら、少なくとも「国務委員会」の設立によって、北朝鮮におけるこの基礎的な仕組みが変更されるまでは、図が示すように、軍事指揮命令系統は直接的に北朝鮮の指導者に従うようになっている。

二つ目に取り上げるのは、朝鮮人民軍の高官を含む全ての者は、常時監視の下にあったということであり、そこには3つの指揮命令系統が存在する。部隊から大隊に至るまでの全てのレベルにおいて、3つに異なる指揮命令系統が、3つの異なる機関に従っているのである。「戦闘将校」及びその部下は、人民武力省

(MPAF) の指揮命令系統下にある。しかし、その背後において、彼らの全てのレベルにおける動向を監視しているのは、一次的には、党の指揮命令系統下にある総政治局 (GPB) であり、また二次的には、これとは個別の指揮命令系統にあり、治安機関の一部である国家安全保衛省の指揮を受ける軍保安司令部 (MSC) である。このように、計画、実施、物資補給等の重要な行動において、人民武力省内の軍人達は、党と治安機関に個別に従う異なる機関の監視の下にある¹²。早稲田大学の重村智計教授の考察を引用すれば、「…北朝鮮の軍人は、二つのグループに別れる。戦闘作戦に従事する兵士と、それらを管理する政治的な兵士である。政治的な兵士の任務は、フィールドの兵士に対して思想教育を施すことと、クーデター計画を察知することである」¹³。

これは、北朝鮮の機関内で定期的に生じていた現象に特有の事例である。軍は、通常兵器及び大量破壊兵器を保有し、北朝鮮の権力構造内の指導組織に配属された兵士を所管する強力な機関である。しかし軍は、総政治局の監視において見られるように、党と緊密に連携する（時には党利のために動く）ように義務付けられているのである。総政治局は、軍における動きを監視するための、党組織指導部に対する軍部からのパイプなのである¹⁴。保安司令部 (MSC) は軍を監視し、保安司令部と総政治局は相互に監視し合っている¹⁵。このように、北朝

¹² 次を参照。Joseph Bermudez, "SIGINT, EW, and EIW in the Korean People's Army: An Overview of Development and Organization," in *Bytes and Bullets: Information Technology, Revolution, and National Security on the Korean Peninsula*, Alexandre Y. Monsourov, ed, (Honolulu HI: Asia Pacific Center for Security Studies 2005), URL: <http://www.apcss.org/Publications/Edited%20Volumes/BytesAndBullets/CH13.pdf>

¹³ Toshimitsu Shigemura, "Will Chance Come for [Japan's] Diplomacy to Resolve Abduction Issue?; Forecast of Future of North Korea, Shaken over Who Will Succeed Kim Jong-il," *Seiron* (in Japanese), November 30, 2008, pp 138-143.

¹⁴ "KWP Central Committee Organization and Guidance Department," *North Korea Leadership Watch*, 2016, URL: <https://nkleadershipwatch.files.wordpress.com/2009/10/kwpcentralcommitteeorganizationandguidancedepartment.pdf>

¹⁵ GPB と MSC の相互の影響の事例として、次を参照。Tara O, "Understanding the Nature of the North Korean Regime: A Foundation to Engagement and Coercion Discussions," *International Journal of Korean Studies*, Vol. XIX, No. 1 (Spring 2015), URL: <http://www.icks.org/publication/pdf/2015-SPRING-SUMMER/2.pdf>

鮮軍内部では、3つの異なる指揮命令系統が存在するだけでなく、それぞれの組織は権力構造の中の他の組織（軍、党、治安機関）の一部なのである。では、どの組織が最も権力を持ちうるのか。それはいずれでもない。各々の主要機関は、それぞれの権利において権力を持っているが（図1を参照）、実際に全てを管轄する唯一の者は、円の中心に位置する者である。その者とは、現在においては金正恩である。

張成沢の粛清後、北朝鮮の全ての3つの主要機関の相互間及びその内部で、動きがあったことを示す個人的なソースからの情報がある。2014年、組織指導部内において、金正恩の指導的地位に関して異なる見解があったと言われている¹⁶。国家安全保衛省及び人民保安省（MPS）は、新たな権限を与えられ、党内構成員の不安を生じさせたと言われている¹⁷。最終的には、粛清に関する事項と準備態勢を維持するための資源確保のため、軍の内部で汚職が増加し、蔓延したと言われている。このように、3つの主要機関において権力構造の不安定な状態があったことが判明している¹⁸。

粛清、不信、権力闘争

アナリスト、政策決定者、報道機関及び専門家の間では、金正恩体制の安定性やその欠如について、盛んな議論が行われている。これらの議論の多くは、2012年に始まり、本稿執筆時点でも継続している体制内の大規模な粛清が、体制の強さを示すサインなのか、あるいは脆弱さを示すサインなのかという点に関するものである。粛清（義理の叔父である張成沢の不名誉な粛清も含む）は、

¹⁶ 2014年11月9日に実施された、元韓国政府関係者パク・シユンジェ（Park Syung-je）に対するインタビューに基づく。

¹⁷ 次を参照。“North Korea’s State Security and People’s Security Ministries Implement ‘9.8 Measures,’” *New Focus International*, April 12, 2015, URL: <http://newfocusintl.com/exclusive-north-koreas-state-security-and-peoples-security-ministries-implement-9-8-measures/>

¹⁸ 次を参照。Jonathan Corrado, “KPA Corruption: A Necessary Evil?” *Daily NK*, April 6, 2015, URL: <http://www.dailynk.com/english/read.php?cataId=nk03600&num=13071>

実際は強さを示すものであるという分析が多くある¹⁹。全ての粛清、機関同士の権力闘争、政府内の変化が何を意味するのかについて、現実的な分析を行うことのできる根拠がある。そこで本節では、北朝鮮の政府基盤内での不安定性に関する情報や、これらが金正恩体制の強さについて何を示唆しているのかについて取り上げる。

北朝鮮における金正恩の権力掌握が弱まっていると評価する根拠がある。2014年、北朝鮮のある情報源によると、金正恩の激昂的で予測不可能な言動が、政府内の支配階級に対して悪影響を及ぼしているという²⁰。また2014年、数家族からなる16人のグループが、中国との国境を渡り脱北した。彼らは、韓国に親戚がいると言われている²¹。これらの多くは、張成沢の処刑に続いて行われた複数の粛清の反動であると分析できる。ソウルにある北朝鮮研究センター主任研究員の朴英子によると、北朝鮮エリートの粛清及び罷免は、三段階に分けて行われたという。「最初の段階は、2013年12月から2014年4月中旬までの間である。2月までは、張成沢の朝鮮労働党(WPK) 行政部、平壤において建設プロジェクトを管理するエリート、張成沢の親戚や個人的な友人、鉱業を管理する閣内のエリート等、中心的な経済特権を持つ者に対して集中的に行われた」。朴氏は、粛清の第二段階であると分析する内容について、「張成沢の粛清の第二波においては、軍に関連する党のエリートや軍人が罷免の対象となった」とする。そして朴氏によると、「張成沢粛清後」の第三段階では、「党機関において通常業務を担う中堅エリートが主な標的となった」²²。

¹⁹ 金正恩体制下の多くの粛清を取り上げ、これが強度と脆弱性の両面を意味するものであるという異なる見解を提供している分析の例として、次を参照。Kim Young-jin, "Are N. Korean Moves Sign of Strength or Weakness?" *Korea Times*, July 18, 2012, URL: http://www.koreatimes.co.kr/www/news/nation/2012/07/116_115430.html

²⁰ "N. Korean Elite 'Getting Restive,'" *Chosun Ilbo*, July 26, 2014, URL: http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2014/07/26/2014072600380.html

²¹ Kang Mi-jin, "Group Defection Stuns North Hamkyung Province," *Daily NK*, August 9, 2014, URL: <http://www.dailynk.com/english/read.php?catId=nk01500&num=12189>

²² Park Young-ja, "One Year after the Execution of Jang Sung-taek: The Shifts of Power and Privilege in North Korea," *Korea Institute for National Unification*, December 16, 2014, URL: http://www.kinu.or.kr/2014/1226_eng/co14-17.pdf

2015年、金正恩は、粛清を続けた。この時点で、権力構造の中で粛清が行われていた中で、軍が最も影響を受けていたことが明らかになった²³。軍において発生した粛清の多くは、将校を含む総政治局当局者と伝統的な「戦闘軍人」の間の内部的な「分割統治」が目的だったと思われる。

この分割は、機関として軍に対する権力を強化するため、金正恩によって実施されたものであるとされている²⁴。ソウルの国民大学校教授であるアンドレイ・ランコフ (Andrei Lankov) によると、金正恩は、1960年代以降見られなかったほどの規模で治安機関に所属する者を粛清したという。ランコフ氏は、これは金正恩が「従順かつ忠実な軍部」を求めていることを意味すると分析する²⁵。2015年7月までに、韓国の国家情報院は議会に対し、「20～30パーセントの党幹部と、40パーセント以上の軍高官が交代させられた」と報告した²⁶。高官の処刑は、2016年になっても継続された²⁷。

では、これらの粛清をどのように理解するべきであろうか。北朝鮮の権力構造における反応は、どのようなものであったのか。その回答は、至極明確なものである。北朝鮮の歴史において、かつてないほど多くの政府高官が脱北をしている。2015年の夏、39号室として知られる、不名誉かつ違法な拡散・海外貿易活動の事務所（これらの活動の貿易事務所本部）に関与していた複数の政府高

²³ 2015年の北朝鮮軍における粛清の具体例として、次を参照。Michelle FlorCruz, “Kim Jong-un Purges More North Korean Military Leadership as Soldiers Food Rations Slip,” *IB Times*, May 19, 2015, URL: <http://www.ibtimes.com/kim-jong-un-purges-more-north-korean-military-leadership-soldiers-food-rations-slip-1929890>

“N. Korean Purges Continue,” *Chosun Ilbo*, May 18, 2015, URL: http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2015/05/18/2015051801100.html

²⁴ 次を参照。“How Kim Jong-un Gets Rid of Threats to His Power,” *Chosun Ilbo*, May 18, 2015, URL: http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2015/05/18/2015051801489.html

²⁵ Dan Sutherland, “Interview (Part 1): Kim Jong Un Purges Show ‘He Wants a Docile Military,’” *Radio Free Asia*, July 12, 2015, URL: <http://www.rfa.org/english/news/korea/korea-lankov-07102015141351.html>

²⁶ “Over 40% of N. Korean Brass Replaced in Purges,” *Chosun Ilbo*, July 15, 2015, URL: http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2015/07/15/2015071500951.html

²⁷ 2016年にハイレベルの政府高官の処刑が行われた例として、次を参照。Choi Song-min, “Ri Yong-gil Arrested Publicly Last Week, inside Sources Report,” *Daily NK*, February 12, 2016, URL: <http://www.dailynk.com/english/read.php?num=13747&catId=nk01500>

官が脱北した。同時期には、幹部であり信頼されていた閣僚級の高官である朴淳雄 (Park Seung-won) も脱北した。香港において北朝鮮の違法な資金ファンドを管理していた中堅当局者も、家族とともに脱北した。つまり、信頼されていた10名の当局者が、2015年の夏に脱北したのである。韓国外相の尹炳世 (Yun Byung-se) によると、北朝鮮政府高官に対する粛清が頻繁に行われていたようである。尹炳世によると、「金正恩が指導者に就任してからの3年半の間に、70名ほどの高官が処刑された。これは、金正日体制下の同時期に比べ、7倍である」。2015年秋までに、その年のみで、外務省や軍幹部、政府機関内の機関から20名の北朝鮮高官が脱北した。さらに2016年に、状況は悪化する。2016年第一四半期の北朝鮮からの脱北者は、2015年同時期から17.5パーセントも増加した。2016年、多くの専門家は、北朝鮮エリートの間で不満が広がっていると予測しており、高官の脱北がかつてないほどの規模で行われていることを踏まえれば、この予測は間違いなく正確なものであろう²⁸。

²⁸ 北朝鮮政府高官による脱北、韓国政府のステートメント、北朝鮮政府高官及び家族の不満を示す分析、2015年以降に脱北した北朝鮮当局者の名前について、次を参照。“N.K. Military Intelligence Officer Defected to S. Korea Last Year: Seoul,” *Yonhap*, April 11, 2016, URL: <http://english.yonhapnews.co.kr/northkorea/2016/04/11/51/0401000000AEN20160411002752315F.html>

“Number of NK Defectors up 17.5 Pct On-Year in Q1,” *Yonhap*, April 12, 2016, URL: <http://english.yonhapnews.co.kr/northkorea/2016/04/12/0401000000AEN20160412004100315.html>
Kang Mi-jin, “‘Fight or Flight’ for Growing Number of Cadres,” *Daily NK*, January 5, 2016, URL: <http://www.dailynk.com/english/read.php?num=13672&catId=nk01500>

“20 N. Korean Officials Defected to S. Korea This Year,” *Chosun Ilbo*, October 21, 2015, URL: http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2015/10/21/2015102101277.html

“FM Comments on Defection of N. Korean Officials,” *Chosun Ilbo*, July 10, 2015, URL: http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2015/07/10/2015071000796.html

“Recent Exodus of N.K. Officials Won’t Lead to Regime Collapse: Experts,” *Yonhap*, July 6, 2015, URL: <http://english.yonhapnews.co.kr/northkorea/2015/07/05/0401000000AEN20150705004700315.html>

Ha-young Choi, “S. Korean Media Report Influx of Officials’ Defections,” *NK News*, July 8, 2015, URL: <https://www.nknews.org/2015/07/s-korean-media-report-influx-of-officials-defections/>

“Disaffection Growing Among N. Korea’s Elite,” *Chosun Ilbo*, April 12, 2016, URL: http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2016/04/12/2016041201292.html

政策に対する不安定性の影響：どのようにして北朝鮮の権力構造が生き残ったか

北朝鮮において、国内的にも対外的にも圧力が増幅していることは疑いの余地がない。事実、金正日はその父に比べ権力が弱いと容易に推測されるものの、金正恩は、金正日よりさらに弱い権力しか掌握していないと評価できる。金正恩は、自らの父と同様の試練に直面し続けるものの、状況は父よりも深刻である。国際社会は、北朝鮮の懸念をもたらす振る舞いについて、これまでにないほど厳しく対応する傾向にある。これは、米国及び韓国も例外ではない。また、中国もこの例外の中に含まれ、これはかつて中朝関係を築いてきた多くの政府高官（多くが張成沢と繋がりががある）の粛清の結果であると思われる²⁹。本稿がこれまでに根拠をあげて述べたような金正恩の権力の弱さは、北朝鮮エリートのモラルと行動の双方に深刻な影響を及ぼした。これは、体制の寿命に影響するため、詳細に検討されるべきである。そこで、本節では、不安定性と北朝鮮国民からの支持の欠如が、国家を運営し、金正恩を権力に留めている北朝鮮のエリートに対してどのような影響を及ぼしたのかを検討する。

金正恩が指導者に就任する以前、幹部エリートは大規模な出費を伴い、頻繁に海外に渡航していた³⁰。しかし、金正恩が北朝鮮の指導者に就任して以降、この行為は怒りを買ったようである。実際に、「小僧っこ集団 (Brat Pack)」と呼ばれる最高幹部の子息は、海外で違法な活動に関与していたようである。この活動は、体制の資金源となり、大半の国民が日々ただ満足に食べていくことさえ困難な国の現状に反し、贅沢な生活に資することとなった。この活動のリーダーの一人が、金正恩の兄である金正哲 (Kim Jong-chol) であったと言われている³¹。この海外活動は、金正日体制下でも行われていたことは確認されているが、金正恩

²⁹ 次を参照。Eleanor Albert and Beina Xu, “The China – North Korea Relationship,” *Council on Foreign Relations*, February 8, 2016, URL: <http://www.cfr.org/china/china-north-korea-relationship/p11097>

³⁰ 次を参照。Peter Maas, “The Last Emperor,” *New York Times*, October 19, 2003, URL: <http://www.nytimes.com/2003/10/19/magazine/19KOREA.html?pagewanted=all>

³¹ “Kim Jong-un’s Brother ‘Leads N. Korea’s Brat Pack,’” *Chosun Ilbo*, April 23, 2013, URL: http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2013/04/23/2013042301095.html

が権力を掌握して以降、その活動の範囲、目的、レベルにおいて強化されたようである。海外からの援助の欠如や核及びミサイル実験による制裁強化によって体制が受けている対外的な圧力により、これらの違法な活動が行われていたということは、高い確率でありうる。これが、汚職を増加させ、金一族に対するエリート、特に20代及び30代の若い世代における絶対的な忠誠心の欠如に繋がった。韓国の国家情報院によると、現在北朝鮮には、5万米ドル以上の資産を有する者は、約6万人いるとの報告がある³²。彼らは、生き残るために、汚職に手を染めなければならない人々である。

北朝鮮において、金正日体制下よりも深刻と目される汚職が、いかにして蔓延したかという例は、驚きをもって挙げられる。最も分かりやすい具体例は、電力に関するものである。2015年に報道されたところによると、電力でさえも、私腹を肥やす腐敗した高官により運営・配分される商品になっていた。北朝鮮と接触のある韓国のある情報源によると、北朝鮮の公共サービスを所掌する機関は、この「新たなエリート」たる富裕層に電力を継続して提供してもらうようにするため、追加で賄賂を支払っている（過去数年は、このような情報が、平壤周辺の主要な都市の外側に出てくることは困難であった）。残念なことに、電力は、より資金が欠如した者、つまり、政府の公共サービス担当官に対して不正資金を余分に支払うことができなかった者たちから再配分されたものであった³³。

上級幹部の利益に関わらず、金正恩の被害的な妄想は、政府の最高機密レベルを含むあらゆる通信手段に対する検閲を増加させることにつながった。社会に不可欠な要素となった蔓延した腐敗が、最も信頼できる高官やその子息を反体制活動の容疑者に変えてしまったのかもしれない³⁴。北朝鮮内の情報源によると、「ジャンマダン世代」と呼ばれる若いエリートは、韓国の映画を鑑賞し、汚職の

³² “North Raises Some Nouveaux Riches,” *Joongang Ilbo*, May 19, 2015, URL: <http://koreajoongangdaily.joins.com/news/article/article.aspx?aid=3004349>

³³ Choi Song-min, “Money Secures ‘Donju’ Power,” *Daily NK*, March 18, 2015, URL: <http://www.dailynk.com/english/read.php?num=13005&catald=nk01500>

³⁴ 次を参照。Joshua Lipes, “North Korean Officials Flee Homes Amid Wiretapping-Linked Executions,” *Radio Free Asia*, June 26, 2015, URL: <http://www.rfa.org/english/news/korea/wiretapping-06262015143246.html>

横行する中で育ち、両親や祖父母世代に比べると金体制に対する忠誠が弱いという³⁵。

金正恩体制に対する外的及び内的の両面からの圧力が強まったことに伴い、2つの重要な局面が発生した。それは、拡散及び違法な活動が悪化したこと（体制のための資金獲得活動）と軍の体制が増大され、強化されたことである。1つ目の局面（拡散と違法な活動）については、近年、韓国を含む外国からの援助が枯渇したことを受け、これを代替するために増加傾向にある³⁶。実際に、過去5年間における多くの報告によると、継続的な輸出、訓練、国家及び非国家アクターに対する支援、マネーロンダリングとフロント企業の巨大なネットワークという形で、中東やアフリカ等に対する拡散が進んでいる³⁷。

もう一方の局面である、軍の強化や瀬戸際政策、挑発的行為は、おそらく金正恩の軍における弱い権力基盤を起因としたものであると思われる。彼の父は、軍の兵器の発達や、韓国に対する挑発、地域の緊張を高める瀬戸際政策に重きを置いた。しかし、金正日は、その息子が実行しているような急速な軍事的な増強は実施しなかった。では、彼はなぜこれを行ったのか。各例証から得られた分析結果は極めて単純であり、かつ明快である。金正恩は、党、治安機関、軍の3つの主要機関を含め、政府内の全てのレベルの高官を粛清した。しかし、軍における粛清は、中でもハイレベルな階層に対するものであった。これは、金正恩

³⁵ Lee Sang-yong, “‘Jangmadang Generation’ Eschews Regime Idolization, Pursues Outside Info,” *Daily NK*, December 29, 2015, URL: <http://www.dailynk.com/english/read.php?num=13661&catId=nk01500>

³⁶ 北朝鮮のフロント企業及び政府が支援する主体が、体制に提供する不正な資金を集める活動の主要な例として、次を参照。Aleksandar Dukic and Beth Peters, “FinCEN Designates North Korea as a Jurisdiction of Primary Money Laundering Concern, Triggering Additional Due Diligence Requirements for Financial Institutions,” *Focus on Regulation*, June 16, 2016, URL: <http://www.hlregulation.com/2016/06/16/fincen-designates-north-korea-as-a-jurisdiction-of-primary-laundering-concern-triggering-additional-due-diligence-requirements-for-financial-institutions/>

³⁷ 広範囲に渡る拡散やマネーロンダリングの活動と、これがどのように国連の制裁に違反しているのかを明らかにする優れた事例として、次を参照。“Report of the Panel of Experts established pursuant to resolution 1874 (2009),” *United Nations Security Council, Panel of Experts*, February 24, 2016, URL: http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2016/157

が、北朝鮮の他の2つの主要権力機関に比べて、軍において権力基盤を確立することが困難であったためだと思われる。どのようにして、軍において同程度の支配を確立させるのか。それは人參と鞭の両方である。つまり、要すれば大規模な粛清を行うことと、膨大な量の新型・能力向上型の武器や訓練を提供・実施して、忠実な将校を満足させることである。近年、金正恩は、まさにこれを実施しているようである。事実、外洋潜水艦や、これに付随する弾道ミサイルシステム、長距離大陸間弾道ミサイル、ソウルやさらに遠隔地を攻撃できる多連装ロケット砲、軍事訓練の増加は、近年では恒常的になっている。このような中、軍事エンジニアは、これらのシステムを猛烈なペースで開発する大きな圧力を受けていると言われている³⁸。もちろん、北朝鮮は金正恩体制下でも核実験を実施しており、これらの実験は、北朝鮮の地域及び米国に対する核の脅威が増大し続けていることを示唆している³⁹。

国際社会は、北朝鮮の関与する軍事的な発展や拡散を抑え込むことは可能であろうか。そうであることを願うばかりであるが、結論は出ていない。2016年初めに行われた北朝鮮の大陸間弾道ミサイル実験と核実験の後、米国と国連の双方は、これまでに発動された中で、最も厳しいとされる制裁を課した⁴⁰。米国の制裁は、国連が課した制裁よりもさらに厳しいものであった⁴¹。しかし、尊敬すべきアナリストであるジョン・パク (John Park) によると、北朝鮮に対して課された制裁は、数年前にバンコ・デルタ・アジアを対象にして実施された制裁ほど効果

³⁸ 次を参照。Sung-hui Moon, “North Korea’s Defense Engineers Angered by Kim’s Boasts of New Weapons,” *Radio Free Asia*, May 15, 2015, URL: <http://www.rfa.org/english/news/korea/boasts-05202015111400.html>

³⁹ Chung Sung-Yoon, “North Korea’s Fourth Nuclear Test: Implications and Impacts,” *Korea Institute for National Unification*, January 11, 2016, URL: <http://www.kinu.or.kr/2016/eng/0111/co16-02e.pdf>

⁴⁰ 次を参照。Carol Morello and Steven Mufson, “U.N. adopts sweeping new sanctions on North Korea,” *Washington Post*, March 2, 2016, URL: https://www.washingtonpost.com/world/national-security/un-adopts-sweeping-new-sanctions-on-north-korea/2016/03/02/309f0514-dfc8-11e5-846c-10191d1fc4ec_story.html

⁴¹ “Obama Slaps North Korea with New Sanctions after Tests,” *Reuters*, March 16, 2016, URL: <http://www.newsweek.com/obama-north-korea-nuclear-tests-kim-jong-un-sanctions-437627>

的ではないという⁴²。これらの制裁は2007年に解除され、以後、米国その他の国は、北朝鮮の資金をロンダリングしている特定の銀行を対象とした制裁を実施していない。筆者の見解では、現在の制裁によって支持されているこれらの措置は、過去にそうであったように、非常に効果的な手段であると考えている。

結論

本稿の示した根拠に基づくと、金正恩は権力を強化することが可能であり、政府は安定するものと思われる。しかし、明らかに、これは未だ実現していない。また、汚職（今や父の時代より蔓延している）によって体制の安定性と信頼性を損なう状態が続くものと思われる。安定性、さらに確立し予測可能な意思決定プロセスの安定は、金正恩が父及び祖父の利用したものと同一モデルを利用した場合にのみ可能である。しかしながら、これまでのところ、父以上に、金正恩がこのモデルを利用することは困難になってきている。体制を指導するのが金一族でなければ、体制が崩壊すると思われるため、北朝鮮のエリートらは、金正恩が後継を担うことを望んでいるものと強く推定される。筆者の分析では、金正恩政権が成功する可能性は、五分五分程度しかないであろうというものに留まっている。もし彼が失敗した場合、北朝鮮のエリート及び主要機関を指導する権能を有する者がいなくなるため、体制は崩壊する。

国際社会、特に北東アジア地域の安全保障に関心を有する国々は、双頭の怪物に対して備えなければならない。最初の備えは、北朝鮮の大規模かつ危険な軍、軍事的意図、定期的に能力が向上し実験が行われている大量破壊兵器に向けられなければならない。2つ目の備えは、強大な軍を有し、経済の腐敗した厄介な国家の崩壊や、統一後に朝鮮半島が平時に戻るまでにかかる一世代（それ以上に時間を要する可能性もある）に対するものである。外交政策のためにも、朝鮮半島や地域の安全・安定のためにも、北朝鮮の脅威を過小評価するべきで

⁴² Chang Jae-soon and Roh Hyo-dong, "(Yonhap Interview) U.S. Blacklisting of N.K. Unlikely to be as Powerful as BDA Sanctions: Expert," *Yonhap*, June 13, 2016, URL: <http://english.yonhapnews.co.kr/news/2016/06/13/0200000000AEN20160613000300315.html>

はない。北朝鮮は、押さえ込まれるべき、極めて現実的な脅威をもたらしている。しかし、それと同時に、北朝鮮は建国以来、不安定な国家である。周辺各国に対する安全保障上の脅威を高める北朝鮮情勢を認識できなければ、米国は、韓国及び日本をはじめとする主要な同盟国に対し、安全保障上の責任を果たせない。また、金正恩体制下で中朝関係がかつてないほど緊張している現在においても、中国は、金正恩体制に対する厳しい制裁を全面的に実施する意思は有していないと思われる。中国が強力な制裁を実施する意思を有していない以上、北朝鮮の脅威に晒されている周辺各国に対する中国の協力は、限定的なものに留まると想定して準備しなければならない。